草加を再発見するフリーペーパー

草生人

そうせいじん

草加と伝統芸能

インタビュー

落語家　三遊亭春馬さん
紙切り師　林家二楽さん
講談師　神田きらりさん
活弁士　麻生八咫さん
麻生子八咫さん

里神楽　駒崎豊次さん
大熊義雄さん

●草加の元気人！●
NPO 法人子ども広場 草加おやこ劇場　事務局長　三澤江津子さん

●草加イベントレポート 2014 年 8 月～ 12 月●

2015 / 春

表紙写真：草加市立歴史民俗資料館 「里神楽」展示コーナー

草加と伝統芸能

昨年の9月、草加在住の落語家、紙切り師、講談師の3人が、草加市から「そうか宣伝隊長」を委嘱された。
彼らは草加を愛し、草加のよさを広くアピールしてくれている。
また、草加には100年の歴史を誇る郷土芸能「里神楽」の社中が2つある。
全国でも珍しいサイレント映画の活弁士も在住している。
みな長い修練を積んだ芸で私達を笑わせ、泣かせ、感動させてくれる。
さあ、今こそ伝統芸能を見に行こう！

僕は入門してからずっと草加の話をしてます。

落語家 三遊亭 春馬 さん



三遊亭春馬（はるば）さんは、落語芸術協会所属の落語家（真打ち）である。草加生まれ草加育ち、生粋の草加っ子だ。
草加市内で落語会を開催したり、市内のイベントの司会を務めるなど活発に活動している。また「そうか宣伝隊長」や「そうか革職人会応援団長」を務めている。

自衛隊体育学校でオリンピックを目指していた!?

―陸上自衛隊にいらしたそうですが、意外な経歴ですね。

春馬　最初入ったのは自衛隊と言っても自衛隊体育学校でして、円谷（つぶらや）選手（マラソン）や三宅兄弟（重量挙げ）など、オリンピック選手が出たところです。

―**もっと意外でした！　種目は？**

春馬　近代五種班というのに入りました。近代五種は水泳、馬術、クロスカントリー、フェンシング、あと射撃。

　最初集合教育を3か月やったんですけど、射撃は特Aでしたがあとはだめだったので、射撃班に移りました。

　ところがロサンゼルス・オリンピックで射撃で金メダルを取った蒲池（かまち）（猛夫（たけお））さんにタバコを吸ってるところを見つかっちゃいまして、「タバコは集中力が欠けるからだめだ」と。

　で、自衛隊体育学校はもう無理ということで、普通の自衛隊の重迫中隊というところに行きました。

三遊亭小遊三の追っかけだった

―**そこから三遊亭小遊三（こゆうざ）師匠に入門というのは**また大きな転換ですね。

春馬　落語は小学校3年から寄席に通ってたんです。父親に最初に連れて行ってもらったのは上野鈴本演芸場。子供だから落語はわかんないんですよ。ただ面白いってのはわかる。その雰囲気が好きでずーっと通って、小学校6年のときはひとりで通いましたね。

　で、中学校卒業したら小遊三に弟子入りしたい、と思ったんです。

―**小遊三師匠は、どのへんが魅力ですか？**

春馬　いやもううちの師匠は100パーセント笑わせますから。ウケないということはないです。

　寄席は、どんなにつらい思いをしてきた人もどんなにつまんない気持ちの人も笑える場なんです。その雰囲気が全部楽しければいい。そういうところがうちの師匠は天下一品です。

　僕は小遊三が大好きで、中学卒業してからも高校卒業してからも入ろうと思ったし、小遊三の追っかけだったんですよ。

―**ところが自衛隊に入ってしまった。**

春馬　自衛隊を何年かやって、落語家になりたいなと思ったころ、自衛隊の中に自動車教習所がありまして、その所長に呼ばれました。
「お前落語家になりてえのか？」

「はいそうです」
「俺の高校の後輩に落語家がいるから、行きたいところを紹介してもらえ」
「え？　誰ですか？」
で、見せられた名前が、なんと師匠小遊三だったんです！

―**おっと!!**

春馬　「今住所書いてやるから、とりあえずここに行きなさい」って言われて。「でも辞める段取りがありますから」って答えたら、「ああ段取りはこっちでやるから」って。10日以内で辞める段取りをしてくれました。たまたま運がよかった。

―**運は大事ですね。**

春馬　そうです、そうです！　もちろん、もちろん！　人間、運しかないですから（笑）。

一日に15回クビになったこともある

春馬さんは、教えてもらった三遊亭小遊三師匠の住所を訪ねたが、師匠は転居していた。そこからいろいろあってようやく師匠のお宅に辿り着いた。



春馬　12月の雪の日でしたよ。玄関でピンポンって鳴らしたら女将（おかみ）さんが出ていらっしゃって「お父さんは今新宿末広亭に出てる」って。それで段取りしてくれて、師匠とは新宿末広亭の2階の喫茶店で会えました。

師匠は最初は「こいつに字書かせたら丸文字だ」って、それで弟子には取らないと言うんですよ。噺家は丸文字はだめなんです。筆を使うから。

でも女将さんがうまいこと言ってくれて、一度お母さんかお父さん連れて来なさいということになった。

後日母を連れて行ったんですが、また運がいい。っていうのはうちの母親はものすごい字がきれい。書道がうまいんです。

その字を見て「お母さんはしっかりしてるから取りましょう」と。それで師匠のところに入門できました。

―**修行は厳しかったですか？**

春馬　何しろ僕は態度が悪いんでもう何度もクビになりましたよ。36回ぐらいは（笑）。1日に15回クビになったこともありますから。でも来るなとは言われない。女将さんが守ってくれた。師匠が「お前を取ったのはうちのかみさんだから、お前はかみさんの弟子だ」と（笑）。

企業や食べ物屋さんを世間に宣伝したい

三遊亭春馬さんは、2005年に草加市から「草加文化大使」に任命され、昨年秋には紙切り師の林家二楽さん、講談師の神田きらりさんとともに「そうか宣伝隊長」を委嘱されている。

―**落語のマクラとして草加の話題をよく出していますね。**



春馬　僕は入門してからずっと草加の話をしてます。

地方に行って「草加せんべい知ってますか？」と聞くと、みんな「知ってるよ。食べたことあるよ」って答える。でも草加はどこだか知ってますか？と聞くと、「埼玉県」と言われないですから……。やっぱり悲しくなりますね。

―**ますます宣伝の必要がありますね。**

春馬　僕は革職人応援団長なので皮革の宣伝には特に力を入れてます。あともともと松原団地に住んでたので名勝草加松原も頑張ってもらいたい。

草加には伝統産業のほかにも、新しい名物になってもおかしくない企業や食べ物屋さんがあるんですよ。それをもっとピックアップして宣伝したい。そういう話を今草加商工会議所の機関紙『ＣＣＩそうか』や『東武よみうり』に書かしてもらってます。

―**草加は昔と比べてどうですか？**

春馬　変わりましたよ。人も変わりました。人情も変わりました。昔はほんとに団地の中で醤油の貸し借りしてた。今は店が24時間営業だしその必要はないので、寂しいところがありますね。

昔は商店会の店で買い物すると、ほかの店のおばちゃんからも「うちには用がない？」なんて声をかけられてた。

子供たちに落語聞かせるのが好き

春馬さんは年間を通して新宿末広亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場、国立演芸場、日本橋亭、広小路亭という6つの寄席で公演を行っている。そのほか地元草加で、松並木落語会や綾瀬川落語会などの自主公演や独演会を開催している。また、公民館や図書館、学校などにも出向き、公演を行っている。



―**児童館や小学校でも落語を披露してますね。**

春馬　子供たちに落語聞かせるのが好きでね。雰囲気だけでも楽しんでもらえればそれでいいかなと。自分が子供の時に出会った、わけがわかんないけどみんな笑ってる面白さ、それを体験してもらいたい。

最終的に落語ファンになればいいけど、そうでなくてもそれをきっかけにして食卓での会話が増えればいい。

「お父さんこんなの観てきたよ、こんなことやってバカみたいでしょ」「それなら俺も知ってるよ」なんてね。

子供たちと家族が楽しめる時間が落語から生まれると思ってるんです。将来、記憶の宝になるかもしれないと。

最後に、草加の革製品はすばらしいので、よろしくお願いします！

草加は終の棲家

紙切り師 林家 二楽 さん



林家二楽さんは春日部市生まれで草加市在住の紙切り師。落語協会所属。お父さんは紙切り師の２代目林家正楽さん、お兄さんは落語家の桂小南治さんだ。
お兄さんの落語と二楽さんの紙切りのコラボレーション「紙工劇落語」や、OHP と照明・音響を駆使した「紙切り STORY・二楽劇場」を各地で開催している。
「そうか宣伝隊長」の１人である。

落語＋紙切り

―落語と紙切りが組み合わさった複合的な舞台はどこから生まれたんですか？

二楽　東北に営業に行ったとき、帰りに宮沢賢治記念館に寄ったんです。そしたら宮沢賢治の「やまなし」という詩のナレーションに合わせて影絵が出てくる、幻灯スライドがありました。

　私は物語を自分から発信してお客さんに届けられるようなものが、ゆくゆく紙切りでもできたらいいなと思っていたんです。だからその幻灯スライドを見ながら、これ、落語と紙切りに置き換えてできないかな、と思ったのが始まりですね。もうかれこれ15年ぐらい前になりますかね。

　落語＋紙切り。１＋１が２や３になるといいけど、１＋１が０・５になるのではという危惧があったんですけど。まあ始めてみて、試行錯誤して……。試行錯誤のもじりでもあるんですよ「紙工劇落語」っていうのは。で今に至るわけです。

イカ天ブームからパンクバンドへ

―この世界に入ったきっかけは？

二楽　うちのおじいさんが春日部で農家をやってて、父はその長男だったんですが、これからの春日部の米作農家は見通しあまりよろしくないから、何かほかのことをやってもいいと言われたので、落語の道を選んだ。ところがなまりがあったんで紙切りをやるに至ったわけです。

―二代目紙切り林家正楽師匠ですね。

二楽　はい。その子供が兄と私ですが、兄はちっちゃいときから英才教育を受けていた。

　父と兄が向かい合って「ぞうさんはそう切るんじゃない、キリンはこう切るんだ」って話しながら紙切りをやってた。それが３、４歳ごろの私からは楽しそうに見えたんですよね。

　混ぜて欲しいんだけども、「今兄貴に教えているんだからお前は向こう行ってな」みたいな感じになっちゃって。

　それでも見てもらいたいもんですから、たとえば馬かなんかを切ってるところで、「こんなの切ってみたよ」って翼をつけてペガサスにしてみたり、角をつけてユニコーンにしてみたりとか、変化球のものを見せるんですよ。

　そうすると父は「うるさい！　お？　ううん？」って興味を示して、「翼はもうちょっとこう斜めのほうがいいよ」と、こっちに気を留めてくれる。そういうことをやっていた。

―そのまま弟子にはならなかった？

二楽　思春期のころになるともう父親が嫌いになる時期ってあるじゃないですか。御多分にもれず私もそうなって。

　ちょうどそのころ、「イカ天ブーム」ってのがあったんですよ。「いかすバンド天国」（※1）。あれにものすごく触発されて、高校生のころからバンドをやっていた。パンクロックにのめりこんで、それこそ髪の毛も金髪のモヒカンにして、革ジャンに鋲打って、なにかっつうとベロ出して中指立てたりとかして活動してた。

　短大を卒業しても、バンドで食っていきたいっていうはかない夢を追いつつ、バイトをしながら生活していた。そんときのバイトがあとで活きるんですけど。

―バンドはうまくいきましたか？

二楽　ところがライブやってもお客さんが来ない。私はベースを担当してたんですが、全然下手くそでリズムもとれなくて、やれ走ってるとかもたってるとか言われたりして。

　あまり悔しいので、曲と曲の合間のおしゃべりのときに、子供の頃覚えた紙切りを披露した。うさぎかなんかを切ったんですよ。そしたら見に来てた革ジャンにモヒカンのあんちゃんたちが「オー!!」って。あれ？　俺ベースよりこっちのほうが喜ばれるんだ！

―紙切りとの再会ですね。

二楽　そのときに馬鹿な私ながらに考えたんです。自分はベースという楽器を死ぬまで弾きたいのだろうかと。そして気づいたのは、私はただ人前に自分というものをさらけ出したかった



※１：いかすバンド天国：TBS で放送された深夜番組『平成名物 TV』の１コーナー。正式名称『三宅裕司のいかすバンド天国』。通称「イカ天」。1989 年２月 11 日～ 1990 年 12 月 29 日放映。



んだなと。その手段として今までは音楽をやってたけど、こんなに身近に、こんな人から喜ばれる、しかも父親がやっている紙切りという芸があるじゃないか。

それまで一言も親父に言ってなかったんですけど、初めて「紙切りやりたいので弟子にしてもらえますか」と言いました。

父は「やってもいいよ、やるんだったらやりなさい」と言ってくれました。

バイト経験が舞台に役立った

―バイトがあとで活きてきたというのは？

二楽　いろんなバイトをしたんですけど、中でも一番長くやったのが音響と照明をやっている小さな事務所でした。

寄席の世界に入ったときに、その照明と音響を見て愕然としたんですね。ほんとに裸電球的なもので顔を照らしてる。

当時はバリライトだムービングだといって、操作盤でライトの色や向きを変えたり模様を出したりする照明が出始めのころでした。こういうのを寄席の芸人が使わない手はないよな、と思ったんです。

―二楽さんの舞台は高度な照明を駆使していますからね。

二楽　ひどい話、地方のあまり稼働していない会館とかでの普通の落語会で、明るくしてください、というとほんとにその場で吊ってある灯りをただ点けるだけで、これちょっと動かしてくださいと言うと、こんどのカラオケ大会で使うように合わせてあるからもう動かせないって。

馬鹿野郎！それ動かすのがお前らの仕事だろ！って喧嘩もしたこともあります。

そういうときは「エスエスを足してください」みたいに、横から照らすライトがエスエスですが、そういうふうに言うと「あ、知ってる人だ」って見直してくれて、やってくれます。マイクでもSHUREのSM57くださいって言えば持ってくるんですよ。

寄席の世界の人は無頓着なんですけど、これからは地方の会館などでやることも多いから、そういうノウハウをこっちから発言していかないとなかなか広がりが出ないんじゃないかなと思います。

―たまたまやったことが活きてますね。

二楽　そうですね。あ、回り道じゃなかったんだ、と思いましたね。

仲間や先輩方からも、お前やけに詳しいねって、「これ、なんて言うんだ？」って聞かれるようになって、アドバイスしたりするようになりました。

今でも指にハサミだこが残ってます

―紙切りの技術はとても高度ですが、どうやって身につけたんですか？

二楽　からだで覚えちゃってるので。稽古の仕方は、相対していると左右が逆になりますので、師匠の横に座るんですね。それで切るから見てろって言われて。馬でもなんでもこう切るんだ、こう切るんだって。あと、見本を渡してもらって、それを見ながら切れるようになるまで切る。





箸とか鉛筆はどんなに熱があってもどんなに酔っ払っても使える。ハサミもそうなるぐらいまで手になじませろって。

修行時代は一日何十枚じゃない、三桁になるぐらいまで毎日切ってました。なので今でも指に「ハサミだこ」が残ってます。修行時代はタコが何度も破れて、血が出て、また破れて、そうするとこういう豆になって。

ライフワークにしたい単独ライブ

―毎年夏に開催している、ご自身の会「二楽劇場」では、紙切りの表現の可能性を模索しながら、通常寄席でやられないステージを行っているそうですね。

二楽　自分だけで1時間半から2時間、単独ライブをやってます。毎年新作のネタおろしです。

いつかはそれこそ落語に負けないくらい、お客様に笑って泣いて観てもらえるステージにしたい。そんな気持ちで毎年公演に臨んでいます。私のライフワークです。

―紙切りのレパートリーはどれくらい？

二楽　それはいくつとは言えないです。リクエストされたものを切らなきゃいけないわけですから。でも頭の中にいろんな引き出しがあって、たとえば動物の引き出し、女の人の引き出し…。その引き出しを開けると中にまた細かい引き出しがいっぱいある。そのパーツを組み合わせて作るっていう感じ。

願いごとは必ず草加神社へ

―「そうか宣伝隊長」に任命されたのを受けて、何かやりますか？

二楽　新たにこれをやろうということは考えてません。今までも草加のことはネタにさせてもらってましたから。

宣伝隊長は、春馬兄さんからお声をいただいたし、子供の名付け親である「草加神社のおじさん」が市長になって宣伝隊長にって言ってくれるんだったらやろう、っていう。

―草加神社には親しんでいるようですね。

二楽　先代から「お願いごとする場所はひとつって決めてそこでお願いするようにしなさい」と教えられているので、私は家内安全とかなんだとかってのは全部草加神社にお願いしています。そうじゃないとお礼参りに行けないですから。

自宅の前と横が昔からやってる農家の方で、季節ごとに玄関にダイコンや枝豆をどんと置いて行ってくれるんです。それを人に話したら、ごんぎつねみたいだって言われたんですけど(笑)、それがありがたい。

適度に都内にも近くそして自然も残っていて。草加は終(つい)の棲家ですね。



名もなき人の生涯の一瞬にスポットライトを当てたい

講談師

神田 きらり さん



神田きらりさんは草加市在住の講談師。落語芸術協会所属。2001年に三代目神田松鯉（しょうり）に入門し、現在二ツ目。
2014年9月から「そうか宣伝隊長」。
新宿末廣亭、浅草演芸ホール、国立演芸場、池袋演芸場、上野広小路亭などの都内の寄席や地方の寄席に出演。ラジオ、テレビへの出演などでも活躍中。

きらり　ある日、目の前に伝説のバスガイドが現れたんです。当時、45歳ぐらいだったのかな。お客さんの心をつかむ話術がすごいんですよね。

　その人に「うまくしゃべれなくて悩んでる」って相談したら、「私しゃべりを磨くために寄席で勉強してるのよ」って。浅草演芸ホールに連れて行ってもらいました。それから一人で行くようになって。

師匠神田松鯉（しょうり）の衝撃

―そこで講談に出会った？

きらり　当時上野にあった本牧亭（ほんもく）っていう講談専用の寄席に辿り着いて、師匠の講談に出会った。神田松鯉っていうんですけど。それを見た時に衝撃を受けたんですよ。

―どんな講談だったんですか？

きらり　座布団の上から江戸時代が無限に表現される。見終わったあと、映画館から出たような残像感が残って。柔らかいビロードの布にふわっと包まれるような質感が言葉にあるのを体感した。

　こんな世界があるのか！　こういうものに自分の人生を賭けてみたい、と思っちゃった。

―いつ入門を申し出たんですか？

きらり　ずいぶん悩みました。28じゃもう遅いだろうなって。でも衝動が抑えられなかったんでしょうね。師匠がやってる講談教室に行ってみました。お昼休みに師匠のところへ行って、「先生、私講談師になりたくてこの教室に来てみました。どうしたらいいんでしょうか？」って聞いた。

「食べられないよ。苦しいことも多いよ、この世界は。それでもいいの？」って言われて、「はい！」って答えちゃった。

　そしたら「いいよ。入れてあげる」と。

「ご両親は知ってるの？」って言われて、「はい、言いました」って嘘ついて。

辞めないという約束

―それで入門できた。

きらり　条件がありました。1回入ったら辞めないという約束。

　一般の常識だとお世話になったらその人に菓子折りでも持ってお礼をしますが、芸の世界は先輩に金品でお礼をすることが許されない。だから、してもらったことは後輩に返す。お客さんにも高座で頑張ることでしか恩を返せない。辞めてしまったらそこですべてが途絶える。

「俺んところに入った以上はそれを途絶えさせるわけにはいかない。だから辞めないこと。それが守れるなら入れてあげる」

「わかりました」

　で帰ってから両親を説得です。両親は「そんなにやりたいなら応援する」って言ってくれました。



　まあずいぶん困ったと思いますけどね。両親に感謝です。のちに妹が家業を継ぐと言ってくれて、だから私は両親と妹に頭が上がらない。

日本人のリズムを沁み込ませる

―まずはどの演目から覚えるんですか？

旅行会社で添乗員をしていた

―講談はお笑いじゃないんですよね。

きらり　お笑いじゃないんです。落語と講談、どっちも着物着て座布団に座ってるけど。落語は台本で言うと会話の部分が主で、講談は卜書きの部分が主なんですね。講談はドキュメンタリー。歴史上の出来事に脚色を加えて伝えるのが我々の仕事。

―講談の世界に入ったのがけっこう遅いですね。

きらり　28で入門しました。それまでは、私は長女なので両親がやっている旅行会社を継ごうと、旅行の免許取って8年間仕事してました。添乗員としてお客さんといっしょにバスに乗って。

　ただ、若いこともあってお客さんとなかなかコミュニケーションがうまくとれない。このままじゃちょっと立ち行かないなと思って悩んでいたんですよね。

伝説のバスガイド

―今からは想像がつかないですね。



きらり　戦国時代の「三方ケ原（みかたがはら）の物見」の修羅場、講談では「修羅場」を「ひらば」と読むんですが、基礎をそこで覚えます。ピアノでいうバイエルですよね。ちゃんと和紙に筆で台本を作って読みます。

　きらりさんが、台本を読んでくれた。リズミカルで力強い声が響いた。途中でパンパンと張り扇（おうぎ）を釈台に打つ。

―間近で聞くとすごい迫力ですね！

きらり　これが15分ぐらいあるんですけど。講談って七五調なんですね。「なにがなにしてなんとやら、なにがなにまでなんとやら」。日本人特有のリズムです。このリズムを体に沁み込ませる。

―音階もありますよね。

きらり　高低と緩急。ちょっと節があって歌みたい。これを半年、毎日毎日お腹から大きい声を出して読む。声が枯れてきます。声を出すと声帯を空気が通る。声帯を空気がこする速度は時速120キロなんです。

―そんなに！

きらり　毎日毎日なので擦り切れて痰に血が混じってくる。声も出なくなってくる。それを超えると本職の声になる。だからずいぶん喉痛かったですよ。何飲んでも滲みるしね。5、6年で声が枯れなくなりました。

師匠の言葉で我に返った

―前座は何年間？

きらり　うちの協会は平均4年って言われてるんですね。私は4年8か月かかりました。しんどかったですよ。

　1回ほんとに辞めようと思った時期がありました。前座の3年目。いろんな楽屋仕事にも慣れてきて、さぼる場所も覚えてきて。3年間やってきたという驕りも出てきた。それで先輩につく怒られて、なんでこんなに怒られなくちゃいけないんだ、怒られるためにこの世界に入ったんじゃないよ。もう辞めよう、と。

　でも師匠の顔がちらつくから、あと1ヶ月、あと1週間、あと3日って。

―でも辞めなかった。



神田きらりさんの「三方ヶ原の物見」の台本。直筆。

きらり　もう辞めようと決めた日。あんまり楽屋って師匠と二人っきりになる日はないのに、ほんの一瞬だけ師匠と二人っきりになった。師匠はタバコ吸いながら「きらり、いつかいいことがある。誰か必ず見てる。わかったね」って言って、高座に上がってったの。

「ああ、そうか！　私は、こんなに頑張ってるのに誰も自分のこと見てくれてない、って思ってたんだ」って気づいた。師匠の言葉で我に返った。

―師匠はずっと見てたんですね。

きらり　見てないようで見てたんですね。ああ、この師匠のところに入ってよかった、幸せだなと思いましたね。

草加の名もなき人を講談に仕立てる

―子供たちにも講談を見せたいですね。

きらり　そうなんです。たとえば私が甚兵衛さんという人の説明をする。そうすると100人いたら100人、頭の中に思い浮かべる甚兵衛さんの顔が違うんですよ。そこが話芸の面白いところ。自分で想像する、言葉を材料に自分で絵を描く。こんなクリエイティブなことってないです。

―草加市から「そうか宣伝隊長」に任命されましたが、どんな活動をしたいですか？

きらり　講談って、名もなき人について、その人が生涯の中でいちばん輝いた一瞬にスポットライトを当てて話すことができる。

　別に有名な人じゃなくてもいいわけで、草加で活躍した人とか、今生きてる人でもいい。こんど草加松原が国の景勝地になりましたよね。そうなるまでのみなさんの孤軍奮闘の様子を取材して、講談に仕立ててもいいかもしれない。

―それは聞きたいですね！



映画に語りが入るといきなり躍動感を持って動き出す

活弁士 麻生八咫さん 麻生子八咫さん





麻生八咫さんと娘の麻生子八咫さんは、草加市在住の活弁士である。
昔の映画は音がない「サイレント映画」だった。そこでスクリーン脇で弁士が映画の説明やセリフを語りながら上映していた。それが「活弁士（活動写真弁士）」である。大正から昭和初期にかけて活動写真は娯楽の王様で、活弁士も人気の的だった。だが、音のついた「トーキー映画」が出現して以来、活弁士は活動場所を失い激減した。
そんな中で、麻生八咫さん、子八咫さん親娘は、日本の伝統芸能である活弁を新しい舞台芸として蘇らせるべく日本全国を飛び回って活動している。

獨協愛が強い

―八咫さんも子八咫さんも獨協大学出身ですね。

八咫　僕が人生をやり直すことができたのは獨協大学に入れたから。そこから人生を立て直した。卒業してから別のところに住んでいましたが、最終的には草加に住むのが夢だったんですよ。

子八咫　ずーっと、草加に住みたい草加に住みたいって言ってて。前は鴻巣に住んでいたんですけど、私が留学中に草加に引っ越してて（笑）。成田空港に帰ってきて鴻巣に帰ろうとしたらそっちじゃない、草加なんだって。

―八咫さんの大学時代はどんな生活でしたか？

八咫　今まで知らない生き方を学んだのが獨協大学です。毎日がウキウキワクワク。今まで会ったことがないような人間がうようよ歩いていた。だから大学に行くのが楽しくてしょうがなかったですよ。

―獨協大学って卒業生の絆が強い？

八咫　強いかもしれません。そんなに大きな大学じゃないし、どこにもそこにも先輩や後輩がいるわけじゃないけども、それぞれ獨協の思いが強いんじゃないですかね。

　だから人に会って、獨協卒と言われると「ああ、いいやつだな！」って言っちゃう。「知らないでしょ私のこと」「いやいや、獨協だったらいいやつなんだよ」みたいな（笑）。

子八咫　私もちっちゃいときから獨協のOB会とかホームカミングデーとか連れ回されて、それこそ岩手県支部まで足を運んじゃうくらい。

　小さいころから朝起きると獨協の校歌と応援歌とキャンパスソングが家中に流れる（笑）、そういう家なんですよ。入学式で一人だけ全部歌えた（笑）。

その土地で仕入れた情報を上演に使う

―お二人の著書『映画ライブ　それが人生』の「映画ライブ」とは何ですか？

八咫　映画ライブってのは活弁のことです。サイレント映画は、日本では活弁を想定して作られましたから。だって活弁が入って初めて完成するんだから。

　日本人はたいへん物語好き。映画の先進国、アメリカ、ヨーロッパはパントマイム文化があったので活弁士は育たなかった。日本では音も言葉も無いサイレント映画を見て、なんか寂しいな、つまんないな、興行師もこれじゃ金取れないなと思った。





―語りをつけたら、ものすごく面白くなった？

子八咫　映画に語りが入るともういきなり躍動感を持って動き出す。それはその場その時にしか聞けない、毎回異なるライブ。スクリーンと弁士とお客さんの三位一体で作り上げていくその空間にやっぱりいちばんの魅力があるなあと、私は思ってます。

―会場ごとに語りも変わっていく？

子八咫　現場に行ったら、お前ちょっといろいろな人に聞いてこいって言われて、あちこち行きます。おいしい和菓子屋、歴史、有名なものなど聞いて回って、その土地の人たちとも仲良くなって、仕入れた情報を上演に使います。

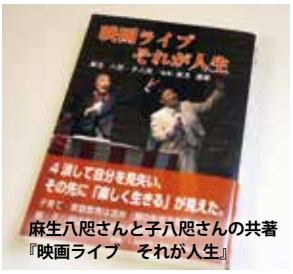
　たとえば秩父に行ったとき、和同開珎（わどうかいちん）のための銅がよく取れたという話をおばあちゃんから聞いたので、『チャップリンの冒険』でコインを投げる場面に「あ、和同開珎。もったいない！」というセリフを当ててみました。

東京大学大学院で活弁を研究中

―師匠は怖いですか

子八咫　怖い時もあります。本当にいいものを作ろうと思った時はそういうのも必要だと思う。しょっちゅう怒鳴られてます。

　こないだ私、1500人のホールで一人芝居をやったんですよ。一人芝居って初めてでどう



麻生八咫さんと子八咫さんの共著
『映画ライブ　それが人生』

していいかわからなくて師匠に教えてもらった。

麻生八咫の活弁は、役を演じ切る、心の底からその役になり切ってしまうところに面白さがある。麻生八咫の基盤は一人芝居なんだなって思って、私も一人芝居やりたいと思った。

麻生八咫さんは活弁を始める前、一人芝居『日傘と剃刀』を日本全国で400回以上公演した。

―一人芝居は何の演目ですか？

子八咫　シェークスピアの「から騒ぎ」の台本を自分で書いた。ちょうど今年シェークスピア生誕450年なのでやりたいなと思って。自分で書いて演出して演じるっていう無謀なことに挑戦しました。

―今通っている東京大学大学院では何の研究をしているんですか？

子八咫　活弁の研究です。近代の語り物芸能史をちょっと広げて。

今活弁って映画史の初期の段階にあった一つの出来事、現象としてしか捉えられてないので、それを芸能としてきちんと位置づけをして捉えたい。そういうのが私の目論見。ひいてはそこからつながる現代の活弁についても研究していきたいなと思っています。

活弁をみなさん知らない。でも知らないのは当然で、というのは活弁について書かれた本も研究者もいない。誰も書いてないなら、自分が活弁芸能史を確立する必要がある。

―いずれ活弁芸能史を執筆する？

子八咫　来年（2015年）、3冊出版する予定です。

現代の活弁映画

―今、現役の活弁士は日本に何名？

八咫　その辺はあいまいなんですけど、一応昔から減りもしないし増えもしない。10人未満と言っています。

―その10人未満のみなさんが集まって、活弁大会をやるようなことは？

八咫　いちおうそういうのを想定しながら、去年から「浅草活弁祭り」を始めました。そういうタイトルを名乗って幟（のぼり）を立てて公演を続けて行けば、いつかみんなが集まることができるかもしれないじゃないですか。だから毎年1回活弁祭りをやろうと。

―新しいサイレント映画って今作られていますか？

子八咫　作ってます。2008年に公開されたんですけど、1億4千万かけて麻生子八咫のために『ゆめまち観音』という活弁映画が作られました。



監督は三遊亭あほまろさんという浅草にいらっしゃる方。三遊亭圓歌師匠の、落語しない弟子なんです。

浅草の古きよき時代、ほんとうに演芸の玉手箱みたいな映画です。全部ジオラマで人形なんですけど。

オープニングの歌をなぎら健壱さんが歌っていたり、撮影を円谷プロが担当していたり、ほんとうに贅沢な映画です。来年（2015年）3月8日（日）にまた浅草東洋館でやります。

大分でやったときには、師匠直伝の大分弁でやりましたよ。

―活弁ならそういうことができるんですね。

子八咫　活弁はそういうところが面白くて、地方ではその地元の言葉でできるし、海外に行ったら英語でやるし。アメリカでも10箇所ぐらい回って公演したりとか。

―ライブだから何でもありですね。

子八咫　そうなんですよね。ほんとうにその場で映画が創りだされていく。それが私にとっては魅力。

大河内伝次郎の『血煙荒神山（ちけむりこうじんやま）』では、師匠の語りとロックの音楽とチャンバラを合わせて、その躍動感がもう絶妙で、鳥肌が立つぐらいすごくいい作品で好きです。

―活弁はまさに現代のライブなエンターテイメントですね。

子八咫　ほんとうにいろんなことができるのが活弁。また映像自体も本身の刀でやりあうチャンバラとか、その迫力を体現するには生の声が活きてくると思うんです。

野球場での公演で、火事のシーンきっかけで大花火大会とか（笑）、宙吊りで活弁とか、師匠はいろんなことにアクティブにチャレンジして、いかに目の前のお客様を楽しませるかということに情熱を燃やしています。その姿を見ると、私もチャレンジしていいんだと思います。

大川平八郎 ～草加出身のハリウッド俳優

大川家再興のために渡米

草加出身のハリウッド俳優がいた。大川平八郎（1905年9月9日～1971年5月27日）だ。

草加で「大川」といえば、江戸時代初期の草加宿開拓者の一人、大川図書（ずしょ）を思い出す人は多いだろう。大川平八郎はまさに大川図書家の13代目の三男として生まれた、直径の子孫なのである。

平八郎は草加尋常小学校、つまり現在の草加小学校を卒業し、東京の中学に進学したが中退。大川家再興のため18歳で実業家を目指し、アメリカに渡った。

やがてハリウッドで映画デビュー、いくつかの映画に出演した。

1933年、父急逝の報を受けて帰国、以来日本でPCL映画製作所（後の東宝）の俳優として活躍した。戦後は主に日本で活動しながらアメリカ映画にも出演。アカデミー賞作品賞受賞の『**戦場にかける橋**』では、助監督として尽力しつつ主要登場人物として出演している。

日本のトーキーの父

日本で最初の本格的なトーキー映画は1931年公開の『**マダムと女房**』と言われているが、草加歴史民俗資料館の元嘱託職員で草加史研究家の中島清治さんによると、それ以前に日本人によるトーキー映画が作られていたという。それは1930年に在米日本人や日系人向けにアメリカで公開された『**地軸を回す力**』という映画で、平八郎は主役として出演していた。

「大川平八郎は日本のトーキーの父だったとも言えるんです」と中島さんは語った。



映画『草加が生んだハリウッド俳優　大川平八郎の数奇な人生』完成記念絵葉書
（写真ミニ博物館　発行）

草加の里神楽

100年の伝統を誇る2つの社中

里神楽とは

7月の浅間神社の例大祭や、9月の神明宮大祭で、様々な仮面や色彩豊かな装束を身に着けた演者が舞い、笛や太鼓が音楽を奏でる舞台が観られる。この舞台芸術を里神楽という。

里神楽は江戸時代から伝わる庶民のための芸能で、東京を中心に埼玉県南部、神奈川県東部、千葉県西部などで広く伝承されている。

演じられる内容は、「古事記」や「日本書紀」などの古典ものや、「御伽草子」を題材としたもの、能や歌舞伎を題材にしたものなどがある。

演者は面をつけ、身振り手振りで演じる。台詞がない無言劇である。

その演技を支える伴奏は、笛（能管、篠笛）、大拍子、大太鼓が基本となる。

里神楽は神社の祭礼において、神様を招き祝福するために上演された。

草加には、里神楽を上演する団体は現在2つある。柿木町の**駒崎社中**と手代町の**大熊社中**。どちらも100年の伝統を誇っている。

駒崎社中の駒崎豊次さんと、大熊社中の大熊義雄さんにお話を伺った。



おせん茶屋での「神明宮大祭」のお囃子。



「神明宮大祭」の様子と、駒崎社中の里神楽　（写真提供：中島清治さん）

駒崎社中 駒崎豊次さん



里神楽や江戸囃子の団体「駒崎社中」の四代目。草加市柿木町在住。昭和7年3月31日生まれの82歳。

柿木の駒崎家の跡継ぎに

10代の豊次さんは千葉県葛飾郡富勢村（今の我孫子市の一部）から柿木の駒崎家に江戸囃子を習いに来ることになった。

「それまでじいさんから教わってたんだけど、親父から、どうせやるんだったら柿木に行って教わって来いと言われた。18、9のころかな」

当時駒崎家には二人の娘さんがいて、跡取りの心配をしているところだった。

「それで私に、二人のうちの姉様と結婚して跡継いでくれ、って言うんだ。私も実家では6人兄弟の末っ子の次男だし、それじゃあって駒崎家に入ることにしました」

向い合って稽古

駒崎さんは「昼間でも夜でも座敷で師匠（お義父さん）と向かい合って笛吹いて」暮らしてきた。

ただ、駒崎家は昔も今も生業は農家だ。農繁期は昼間は農作業、稽古は夜になる。

「今日はくたびれた、って寝ちゃったりすることもあった」

その分、冬の農閑期は稽古に熱が入り、高度な技を集中して覚えたという。

また、地元だけでなく、東京の祭事にも呼ばれるようになった。

「千住や神田あたりで神田囃子の人と仕事するときは、トコトコ日光街道歩いて行ったものだよ」

柿木町は草加市北東部に位置し、市内で最も古い歴史をもつ地域だ。その地の開祖である豊田氏が創建したのが女体神社。ここでは毎年10月に「お日まち」という祭りが行われる。駒崎社中はそこで里神楽を奉納したり、江戸囃子を披露したりする。

また、毎年9月、草加駅の東側の旧道で催される神明宮大祭では、神明宮に設営された舞台で里神楽を奉納する。

駒崎さんは左利きなので、笛を左側に構える。祭りでは2人で交代しながら1日中吹くことが多いが、息が切れてくる気配はない。力が入っていないからだ。「力ばかり入れても音は出ないんだよ」と駒崎さん。



里神楽で使う能管（上）と、主にお囃子で使う篠笛（下）

合図は笛が出す

江戸囃子の楽曲には曲名がある。「屋台」「聖伝」「鎌倉」「四丁目」「玉打ち」などだ。そ

れらを続けて演奏するが、曲の切り替えのきっかけは笛が出すのだという。

「笛の合図で、この笛ならこう太鼓を叩こう、ということになってる。笛は覚えるのは大変だよ。10年もかかるよ」

一時、江戸囃子の太鼓を子どもたちや大人に教えたことがあったそうだが、笛は教えてこなかった。笛はまず最初に音が出ない。音が出てからじゃないと曲が教えられないからだという。しかも曲を覚えさせるのがまた大変だ。

「1か月に1回ぐらいじゃ覚えられない。私は毎晩師匠から2時間習って、ふた月ぐらいでやっと1曲覚えたんだ」

駒崎社中は今は数人だけ

駒崎社中の五代目は息子さんが継いでくれるそうだ。だが、メンバーは減っていて、現在は数人だけだという。里神楽を披露するときは、千葉県など近隣から助っ人を頼んで舞台を作る。

この伝統はなんとしても後世まで伝えていかなければいけない。

駒崎さんは「自分は若いから、まだまだ現役でやれるよ」と力強く言っていた。



大熊社中 大熊義雄さん



草加市手代町の大熊社中四代目。昭和16年3月23日生まれの73歳。本業は農業。草加市農業祭では小松菜でたびたび市長賞を受賞している。

手代連中

大熊社中もまた、百年の歴史を持つ里神楽の団体である。

もっとも当初は名称は大熊社中ではなく「手代連中」と名乗っていたそうだ。連中とは「一座」というような意味である。また草加には南草加（今の氷川町）や谷塚、西袋、柳之宮など、あちこちに里神楽の「連中」があった。

「お囃子とお神楽はどこにもあったんですよ。だけどだんだんやる人が少なくなって、結局残ってるのはうちと柿木の駒崎さんだけだね」

どうしてお囃子が消えていくのか。一番の原因は笛を吹く人がいなくなっていることだと大熊さんは言う。

「太鼓はとりあえずは上からポンと叩けば音は鳴る。笛は息や指を使うので、なかなか覚えられないんだよ。だから結局は笛がいなくなるとその連中は自然に消滅ということ」

江戸囃子のネットワーク

大熊さんのお父さんは足立区の花畑の太夫（お囃子の指導者）の元に、お囃子を習いに行っていた。その太夫はたいへん腕のいいプロで、東京のあちこちのお囃子の親方たちと手を組んでいた。お父さんはそのつながりから佃島の獅子舞に参加するようになり、お囃子の達人たちにもまれながら腕を磨き、東京のお囃子仲間を増やしていった。

大熊さん自身も、若い時からあちこちの行事に参加してきた。

近年出演する場所が減っているが、大熊社中の出演は年間を通して満遍なくあるという。正月に節分、春から夏の祭りシーズン、そして秋から冬にも。場所も地元草加を始め、越谷、花畑（足立区）、四つ木（葛飾区）、佃島（中央区）、雑司が谷（豊島区）など。

7月の草加市瀬崎の浅間神社例大祭では、毎年大熊社中が里神楽を奉納している。同日に越谷の浅間神社の祭礼もあるということで、草加は大熊義雄さんが担当し、越谷は五代目となる息子さんに任せているという。

舞に合わせて吹く

お囃子のリーダーは笛である。笛のきっかけに合わせて太鼓や大拍子も曲を切り替える。

そして里神楽では、神楽の舞に合わせてお囃子を鳴らすのだという。

「舞う人が身振りや足で曲の変化の合図をする。すると笛がすっと合わせる」

お囃子は舞の筋を覚えなくてはいけないということになる。





そう、大熊さんは神楽の舞もできるのだ。

「おやじに言われたのは、結局は請け負うものはなんでもできなくちゃだめだということ。急に代役を頼まれることもあるしね」

演奏できる人が少ない「秘曲」も

祭りでは、「屋台」や「聖伝」などの複数の曲のセットを1日に何回も演奏する。そのほか、お神輿が来たときに演奏する「投合」という曲もある。

それらはどこでもほぼ共通で、「普通の祭り囃子だったらそのくらい覚えておけば大丈夫」ということだ。

だが、そのほかに秘曲がある。それが吹けたり叩けたりする人は極めて少ないという。大熊さんはいくつか吹けるのだが、草加で秘曲の太鼓を叩ける人がいないため、なかなか吹く機会がない。

「木場の角乗りだとかでは秘曲を使うんだ。だからそういうのを吹いたり叩いたりできない人は、そこに呼ばれない」

今回のインタビューで、里神楽や江戸囃子がいかに奥の深い芸能かを知ることができました。みなさんにもぜひ腰を据えて見ていただきたいと思います。

草加の元気人！13

NPO法人子ども広場
草加おやこ劇場　事務局長

三澤江津子さん

みさわ　えつこ



「おやこ劇場」は、親子で舞台芸術を鑑賞し、同時に他の親子ともかかわることで、子供たちの感性を育てていこうとする団体だ。舞台の鑑賞のほか、遊びの会やキャンプ、表現ワークショップなどの活動もしている。

「おやこ劇場」そのものは全国的な活動だが、各地域ごとに別の団体が主催し、形態もさまざま。草加市で活動するのは、「NPO法人子ども広場　草加おやこ劇場」。三澤江津子さんは、事務局長であり、おやこ劇場活動の中心人物ともいえる。

松原団地駅東口にあった事務所が建て替え中とのことで、法務局出張所の近くにある仮ずまいにお伺いした。古いアパートは、インタビューにぴったりのほっこりした空間だった。

松元ヒロ氏のライブがきっかけ

「草加おやこ劇場ができて、40年。NPO化してから10年ですね」

三澤さん自身がかかわるきっかけは、ヘビーな芸風で有名な、元「ザ・ニュースペーパー」の松元ヒロ氏（※1）のライブが草加おやこ劇場で公演されたことだった。事務所に1歳の子供を連れてチケットを買いに行き、そこで入会。

「最初私はただこの公演が見たいだけだったんですけれど、年間を通して、子供の年齢に合わせたいろいろな作品をやってるということを聞いて、好きな芝居が子供と一緒に見れるなんてラッキーと、その場で入会したんです」

入会は4歳児からだったが、当時おやこ劇場は幼稚園に入る前の未就園児、いわゆる0123歳向けの活動を進めようとしていた。そんな時に、赤ちゃん連れの三澤さんが来て、大歓迎となったらしい。

そして12年前、NPO組織となったタイミングで事務局に入った。

「会員としても楽しかったけれど、おやこ劇場のなりたちを知っていくうちに、私が求めていたところはここかもと思って。子育てしながら社会にかかわれるっていう部分でも」

若い頃お芝居を観るのが好きで、舞台の裏方になりたかったが、短大卒業時の就職活動で受けた適性検査で合わないと出たのだという。裏方だと照明や衣装など専門的だったり、一つの劇団にずっとかかわることになる。しかし三澤さんはいろいろなことに興味を持っておもしろがるタイプ。



上演する演劇は
このカタログから選ぶ。

「今おやこ劇場でやってることは、劇団を決めて、交渉して、それから当日打ち合わせだったり、客席づくりだったり、入場のお手伝いだったり、お芝居にトータルにかかわること。あれ、私のやりたかったことができてる！」

生の舞台との出会いは「情操教育」

おやこ劇場は40年前、テレビが各家庭に入って、商業主義的な番組が子供たちにとってよくないと、学校の先生や保護者が立ち上げた。

「今は運営の形もいろいろ、NPOのところもあるし、会費のしくみもちがうし、でも、舞台鑑賞を通して、子供たちに文化を届けるとか、主体性を育てるというところでは一致しているかな」

舞台芸術の魅力は「ライブです。ライブ感。生の人と人とのコミュニケーション、何が返ってくるかがわからない、という」。

しかし、ふだんの生活ではなかなか見る機会が無い。小中学校でも、芸術鑑賞の時間は減っている。

「私中学でPTA役員をやっています。予算の中に芸術鑑賞費っていうのがあったので、何見てるんですか？と聞いたら、会議室のテーブルやエアコン修繕費になってると。去年、ちょっと待ってください、私がこういう仕事していて、作品とかも紹介できるのでもし良かったらやりませんか？といって、去年と今年芸術鑑賞会やりました」

「『イシノマキにいた時間』（※2）という、3人が東日本大震災のボランティアに行ったときの風景を描くお芝居を鑑賞しました。でも、生徒達は何が始まるのか、「演劇」を見たことがないから、暗くなっただけできゃーって、落ち着いて見てくれない」

「演劇の良さって、舞台の上に何もなくても、場が変わったり時代が変わったり、それをセリフと、照明とか音楽の演出で表現できるところですけれど、理解するには経験と想像力が必要で、初めてだとそれがわからない」

「たとえば客席に向かって、「やす～」と名前を呼んでいるシーンでは、『だれ？やすって』『おまえじゃないの』みたいなことになってウケちゃって、内容に入っていけない。でも、1時間半やっていくうちに、ここここでしゃべっているけれど、時間や場所が違うんだ、とわかるようになって、見ていけるようになる」

2度目となった今年は、3分の2が経験者ということで、静かに見入っていたという。

「ある講座で『あなたたちがやっていることは情操教育ですよ』って言ってもらえました。おやこ劇場なんて会員制だから、すべての子供達を対象にとはいっても、なかなかそうはいかない。でも、「文化」を生活の一部だって思ってもらって、食べものを食べるみたいな感じでとらえて欲しいなと。本は読みなさいっていうじゃないですか。本を読むより、お芝居見た方が手軽で、みんなで体験を共有できるから、よりいいんじゃないかと思うんです」

※1　松元ヒロ　ヒロポンのインターネット大作戦　http://www.winterdesign.net/hiropon/
※2　『イシノマキにいた時間』※ http://www.ishinomakitime.com/

「おやこ劇場」の基本、「サークル」と「自主活動」

「おやこ劇場」の活動ベースとなる単位は「サークル」だ。2世帯以上で作り、月1回集まって、情報交換や会費の収集、チケットの配給などを行う。活動のやり方や内容は自由。

「大人だけで夜にファミレスに集まって世間話をするとか、子供といっしょに公園で集合するとかいろいろ」

三澤さんは入会当時、ママ友を誘い、ちょうどうさぎ年の同年代ということで「うさぎサークル」を結成、活発に活動を始めた。

「いっしょにごはん食べたり、遊びの会開いたり。料理が得意な人がいたので、じゃあ先輩ママ達に子供を預けて料理教室やろうかとか、いろいろやっていました」

「自主活動」は、子供のためにさまざまな企画を考え実現していく活動。

12月のミニコミ誌を見ると、「子どもあそび市」「合同クリスマス会」「ハロウィンを楽しもう」など楽しいイベントの予定や報告が並んでいる。



しかし最近は、会員が受け身なことが気になるという。

「私なんかは、何でも好きなことをやっていいよ、と言われると、『何する何する？』って喜ぶ方なんですけれど、ほとんどの人は『何してもいいよ、何でもいいよ』って受け身」

「たとえば、今度パン製造ロボットが登場する『口はロボットの口』というお芝居を観るのに、そのお芝居楽しむために何ができるかな、事前活動っていうんですけど、作品の原作本を読もうとか、近くのパン屋さんへ行こうとか打ち合わせします。本当はそれぞれの発想で勝手にやってくれたらいいだけなんだけれど、やってくださいって言わないとやらない」

今のお母さんたちの世代は、サービスを受ける側になっていて、自ら行動するということが少ないからだろう。

「なんかこう、楽しみにしてますう、みたいな感じ。そうじゃなくてみんなで作らない？というふうになかなかならない。まずは母が、大人が楽しむというのが大事だなあと思います」

人との繋がりを作る居場所として

「おやこ劇場」の今の悩みは、会員が減っていくことだ。

乳幼児の頃に入った人は、幼稚園に入ると平日遊びにこれなくなってやめる。小学校に入ると、お稽古ごとが忙しくなってやめる。中学校になると部活でやめる。

三澤さんは、**「高学年向けの作品っていいのがいっぱいあるんだけれど」**と残念がる。

小さな子供向けの作品だけでは、演劇の魅力はわかりにくい。子供が小さいうちに、子供保育に預けてもいいから、高学年向けの作品を見てみて欲しいという。三澤さん自身も、スタッフになることでそういった作品に触れ、**「あらためて演劇好きな自分に気が付いた」**。

また、「おやこ劇場」は「定期的に演劇を鑑賞する」ためだけの団体ではない。演劇鑑賞や遊びを通じて、年代の違う子供やさまざまな大人と出会い、ふれ合いことのできる場でもある。子供にとって、学校以外の居場所があることはとても大切なことだという。

「幼稚園の頃じゃれあっていたお友達と学校はバラバラになって、でも月に1回、半年に1回、年に1回、男の子は背が高くなってたり声が変わってたりするんだけど、ウケる～！とか言いながら、会うことを楽しんでいる」

三澤さん自身、子供が赤ちゃんのときから入会し、ずっと子供たちの活動を見てきた。

「子ども会議とか、中高生のキャンプ実行委員とか、そういう子供たちの主体性をのばす活動もあるし、やっぱりいいところだなあって思う。それに、子供たちはまわりにいた大人に育てられたみたいな部分があるし、私自身も、いろんな年代のお母さん達と出会えたから」

インタビューでは、三澤さんが本当に心から楽しんで仕事をこなし、「おやこ劇場」をひっぱっていることが伝わってきた。

今年は、6月に草加市文化協会共催のオペラ「口はロボットの口」が上演される。一度参加してみて、「舞台芸術」の魅力と、「おやこ劇場」の活動に触れてみてはいかがだろうか。

TSUNE COFFEE SHOP
ユウデイさんの食パンを使ったサンドイッチ、水素還元水を使ったおいしい珈琲、『はちのす陶房』のオリジナル手作りカップで、ゆったりとした時間をぜひどうぞ
林さんが作った シフォンケーキ
珈琲・紅茶とセットで 550円！
毎週味が違います！
美味珈琲　ツネ
草加市金明町 375-30　☎ 048-932-1528
営業時間：AM8:30 ～ PM8:00
定休日：日曜・祭日

NPO 法人子ども広場　草加おやこ劇場

草加市栄町 3-3-23　TEL/FAX 048-936-1771　http://www.souka-oyako.net/



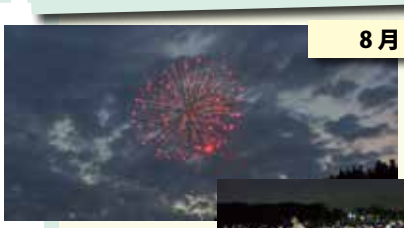





草加イベントレポート 2014年8月～12月

草加市民納涼花火大会

8月2日





第二会場にも人がいっぱい→

今回で10回目となる花火大会。5000発。開催場所である「そうか公園」は草加市の北東の端にあり、なかなか行きにくい位置。今年初めて足を運んだ。選んだルートは「越谷レイクタウン駅」からの歩き。ただ出発が少し遅かったため、第1会場はすでに入れなかった。残念。

会場に着いて驚いたのは、ものすごい人の数。こんなに大勢の人が訪れていたとは。露店の通路は満員電車並みの混み様。公園入り口側の道路もほぼ人で埋まっている。警備の人が「第二会場は空いています」と何回も叫んでいたのでそちらに回ったが、広い運動場もすでにほぼ満杯。みんな空を見上げていた。

第1会場は午後4時半から開場されている。6時半からはオープニングセレモニー（小学校器楽クラブなどの演奏とスポーツカイトのパフォーマンス「air-rex」）。

来年はちゃんと早めに行って、第1会場から花火を見よう。

草加市総合防災訓練

8月31日







↑横転したバスからの救出訓練／ヘリの訓練
←防災広場に設置された大型ディスプレイ

この防災訓練の正式名称は『第35回　9都県市合同防災訓練』。9都県市とは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県と、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市。今回、埼玉県会場が草加市になった。

訓練はメイン会場である綾瀬川左岸広場と南側のグランドに加え、草加駅、草加市立病院、草加市文化会館、市民体育館、草加駅周辺で同時に行われた。

会場は住民による訓練エリア（左岸広場）と、プロによる訓練（機関系訓練）エリア（南側のグランド）に分かれ、「機関系訓練エリア」には、半分埋まった家、横転したバス、トリアージポストという看板のかかった医療テントなどがしっかり準備されていた。1050号線（左岸広場東側道路）には三郷、春日部、桶川など、他地区からの防災関係車両がずらり。ヘリコプターによる高所救出訓練も近隣のビルを使って行われていた。

ともかく大規模かつ本格的。広場中央には大型ディスプレイが設置され、訓練の様子をずっと実況中継していた。防災のプロは、毎年こういう形でしっかり訓練しているんだなと、改めて凄いと思った。

草加ふささら祭り

11月2・3日







草加市では一番大規模な複合イベント。キャッチコピーは「草加流おもてなしの2日間　踊・食・感」。

今回、天気予報はずっと「雨」だったが前日「晴れ」に変わって、関係者も草加市民もみんなホッとしたに違いない（2番目に大きい「宿場まつり」が台風で中止になったから）。獨協大学の「雄飛祭」も同日開催。

「ふささら祭り」のメインイベントは、2日の「市民パレード」と3日の「踊るん♪よさこい」。左岸広場では模擬店、文化会館駐車場ではワールドバザールを連日開催。

同日開催イベントは「少年駅伝大会」、「商工会議所まつり・モノづくりダイレクトセール」、「草加ラグーンJAZZ&ROCK Fes」、「綾瀬川再生21事業」、「文化の広場2014・ファミリー寄席」「パインジャズフェス2014」など。

ともかく1日じゅううろうろしていても飽きないし、食べるものにも困らない。左岸広場の周りも整備され、ピクニック的に落ち着ける場所もたくさんある。

ごちゃごちゃしている気もするけれど、そこに「町の勢い」があると思う。

以前の「市民まつり」とはかなり様変わりしているので、しばらく行ってない人はぜひどうぞ。



パインジャズフェスのぼり

街グル in 草加＋百縁商店街

11月23日







ともかく人が多かった「街グル in 草加」「百縁商店街」

去年大成功を収めて2回目の「街グル in 草加」。今年も好天に恵まれ、大勢の人が訪れた。草加駅東口を出たところから「百縁商店街」が始まり、会場となる草加小学校に向かう旧道（旧日光街道）も人でいっぱい。

オープニングセレモニー前に会場に着いたのだが、去年大人気だった「肉の日山」の『A5和牛すじ焼き丼』は、なんとその時点から大行列、昼前に売り切れ。

午後になると売り切れが続出。去年その場で作りながら大奮闘していた「草加ふささら生せんべい」は、今年は1000個で打ち止め（せんべいコンテストで手が足りず、だそう）。

マルイ前やボードステージなどでは「街の音（ね）LIVE」が、ヨーカドー前のカーソンプラザでは、「パリポリンピック？世界選手権大会草加大判手焼きせんべいコンテスト」が開催されていた。焼いている姿は地味だが、なかなかの盛り上がり。

メイン会場の草加小学校校舎の前には、前年に引き続き市内商店会の紹介パネル。味のある看板を見ながらグルメを味わっている人も多数。

去年の反省をふまえつつ、さらに楽しく美味しく充実したイベントに、というスタッフの工夫と苦労がよくわかる。

ただ、11月上旬に「ふささら祭り」下旬に「街グル in 草加＋α」と、大規模のイベントが続いて裏方さんは大変なんだろうな、疲れないかな……って、それは大きなお世話ですね。。

草加イベントレポート 2014 年 8 月～ 12 月



神明宮大祭

神明宮の（ほぼ）隣にあるお休み処「神明庵」は、ふだんは 4 時までだが、この時だけは夜までやっている。



青空とアートとごちそう

「爽日市庭」（そうかいちば）」と「心 koko 凪 nagi」のコラボ企画。美味しい食べ物と音楽、グッズやアート体験ができるゆったり空間。



宿場まつり（のちょうちん）

台風の影響で残念ながら中止になってしまったが、開催前しばらく草加駅東口に登場した「宿場まつり」の巨大なちょうちん群は素敵だった。



草加レザーフェスタ 2014 冬

草加市内の皮革業者が一堂に集まって製品を直売するレザーフェスタ。

	おもなできごと	場所
8 月 2 日	草加市民納涼大花火大会	そうか公園
8 月 2 日・3 日	そうかっ子なかよし盆踊り大会	高砂小学校
8 月 3 日	街の音 LIVE	ヨーカドー草加店前、西友草加店駐車場など
8 月 3 日	草加市道 1050 号線開通・防災公園完成記念式典	
8 月 17 日	松並木浴衣まつり	松原遊歩道
8 月 23 日	草加市防災まちづくり講演会	アコスホール
8 月 30 日	みんなの谷塚夏まつり 2014	谷塚小学校通り
8 月 31 日	草加市総合防災訓練（第35回九都県市合同防災訓練　埼玉県会場）	綾瀬川左岸広場など
9 月 5 日	川口兄弟帰国コンサート	草加市中央公民館
9 月 6 日・7 日	神明宮大祭	神明宮～旧道沿い
9 月 13 日	避難訓練コンサート	草加市文化会館ホール
9 月 20 日	青空とアートとごちそう	草加中央防災広場
9 月 28 日	ふささら　ＨＵＬＡ＆タヒチフェスタ２０１４	草加市文化会館ホール
9 月 28 日	「草加市商店連合事業協同組合」設立十周年記念 記念式典　祝賀会	アコスホール
10 月 17 日～ 25 日	美術展（市展）	アコスホール
10 月 5 日～ 7 日・14 日	国際ハープフェスティバルスポットコンサート	東福寺本堂・草加市立病院など
10 月 4 日・5 日	中央公民館まつり	草加市中央公民館
10 月 18 日	心 koko 凪 nagi 祭 sai with 爽日市庭～ 親子で楽しむ日本の芸術文化～	草加中央防災広場
10 月 18 日・19 日	草加神社例大祭	草加神社
10 月 19 日	草加ふささらダンスフェスティバル	草加市文化会館ホール
10 月 19 日	健康づくりウォーキング大会	
10 月 19 日	そうか公園フリーマーケット	そうか公園
10 月 22 日	獨協大学創立 50 周年記念事業（記念式典／祝賀会）	獨協大学 35 周年記念アリーナ
10 月 26 日	草加市議会議員一般選挙及び草加市長選挙	
11 月 2 日・3 日	草加ふささら祭り	綾瀬川左岸広場など
11 月 9 日	福祉まつり in 草加	草加駅東口広場など
11 月 13 日・14 日	第 26 回日本ハープコンクール	草加市文化会館ホール
11 月 15 日	国際ハープフェスティバル 2014 フェスティバルコンサート	草加市文化会館ホール
11 月 16 日	国際ハープフェスティバル 2014 ファイナルコンサート	草加市文化会館ホール
11 月 15 日	新田 4 商店街合同イベント「フォー・リングラブ商店街」	新田駅周辺
11 月 23 日	チャレンジ・ザ・ウォーク　そうか“るるく”	
11 月 23 日	街グル in 草加 2014	草加小学校
11 月 23 日	パリポリンピック？世界選手権大会　草加大判手焼きせんべいコンテスト	カーソンプラザ
11 月 23 日	百縁商店街 in 草加宿／街の音 LIVE	旧日光街道など
11 月 30 日	ハートフルコンサート	草加市文化会館ホール
12 月 5 日・6 日	新田街バル	新田ふれあいロード商店街・新田横丁商店街
12 月 6 日・7 日	草加レザーフェスタ 2014 冬	アコスホール
12 月 7 日	農業祭	草加市民体育館・文化会館駐車場
12 月 14 日	草加中央吹奏楽団　クリスマスコンサート 2014	草加市中央公民館ホール
12 月 20 日	わいわいクリスマスコンサート 2014	新田わいわいロード商店街

おもてなし宣言
無料休憩所
神明庵
草加宿
旧日光街道沿い。
名勝「草加松原」の散策の起点として
ご利用下さい。
★美味しいお茶でおもてなし
★2階はギャラリーになっています
開館時間
11 時～ 16 時
月曜休館
（祝日の場合は翌日）
〒 340-0012
草加市神明 1 - 6 -14
048-948-6882
info@shinmeian.com

広告募集中！
「草生人」本誌への広告を募集しております。
詳細はメールでお問い合わせください。
soseijin@asymos.com

はきもの
伊勢屋
草加市高砂２－１９－４
TEL　０４８－９２２－２８１０
FAX　０４８－９２２－３０１６

昭和の雰囲気が残る落ち着いた喫茶店です。
サイフォンで丁寧に煎れた珈琲をどうぞ。
TEA ROOM JUNE
ティールームジュン
グループやサークルの集まりなど
お気軽にご利用下さい。
松原団地駅東口 3 分
草加市栄町 3-6-9 草加ガーデンハイツ 1 F
☎ 048-936-4211

応援ありがとうございます

サポート会員の皆様

大橋欣之 様	細川昭二 様
室永喜久 様	中島清治 様
山川百合子 様	原田正夫 様
広沢威 様	大江啓之助 様
正木裕子 様	宮原弘 様
戸田直斗 様	関一幸 様
清水綾乃 様	星博昭 様
西村昌巳 様	田口大 様
佐野嘉則 様	髙橋かおる 様
富田典明 様	小野良一郎 様
茂垣行信 様	杉田和美 様
小林怜代 様	中沢進 様
おるがん 様	海野昌僕 様
須永賢治 様	染谷洌 様
関根利幸 様	染谷嘉子 様
林一男 様	鈴木恵津子 様
高島暁里 様	笹崎清子 様
瀬戸健一郎 様	門井光子 様
染野政夫 様	柳井起美枝 様
炭之原治 様	小泉浩伸 様
藤家美栄子 様	小俣克彦 様
森岩男 様	椚瀬高志 様

※会員番号順

月々想々　編集より

2015年最初の号をお届けします。

「冬号」が「春号」になってしまいましたこと申し訳ありません。

辛抱強く発行を見守って下さった、取材をお願いした方々、およびサポート会員の皆さま、そして読者の皆さまには深くお詫びし、また感謝をいたします。

さて、今回の「草加と伝統芸能」、いかがでしたでしょうか。

三遊亭春馬さん、林家二楽さん、神田きらりさん、麻生八咫さん、麻生子八咫さん、駒崎豊次さん、大熊義雄さん、お忙しい中、取材を快く受けてくださり、本当にありがとうございました。

また、表紙の写真（「歴史民俗資料館」に展示してある「里神楽」のコーナー）の撮影を許可していただいた館長の細川昭二さん、里神楽と大川平八郎についてのお話と写真提供をしていただいた中島清治さんにも深く感謝いたします。

草加の「里神楽」はいわゆる「郷土芸能」と呼ばれるものです。ちゃんと人が演奏しているお囃子があるお祭りは、それほど多くはないと思います。地元のお祭り、次回はじっくり味わってみてください。

それから、ひきつづき「サポート会員」をお願いさせていただいています。現時点ではまだ「カレンダー」のプレゼントになっていますが、「絵はがき」を準備中、他にもいろいろ企画中です。今後のために、ぜひご協力をお願いいたします。

草生人 web

http://www.asymos.com/soseijin/

「草生人」公式サイト。「お問い合わせ」、バックナンバー PDF のダウンロード、スタッフブログ更新情報などを掲載しています。

STORES

https://soseijin.stores.jp/#!/

「草生人」関連グッズのネットショップ。現在は「カレンダー」のみですが、今後「絵はがき」等、いろいろ企画中です。



「草生人」を応援してください！

サポート会員になっていただけませんか？

「草生人」発行のための費用について、読者の皆さまに「応援」（サポート）していただきたいというお願いです。**1口1000円**となっています。

特典
- 第2期の「サポート会員カード」、および「草加風景絵はがき」（準備中）をお送りします。
- お名前を本誌および「草生人 Web」に掲載（本誌掲載は3号分）。
- 「草生人」3号分を郵送で自宅にお届け。

応援方法（お申し込み方法）

1　銀行振り込み（草生人 Web の「お問い合わせ」から、もしくはメールアドレス asymos_info@asymos.com までご連絡ください。振込先など詳細をご連絡いたします）。

2　《STORES》にて「草加風景カレンダー応援版」を購入（絵はがきが準備でき次第入れ替え）







L&C
あなたの生活と企業の繁栄をアシストします。
代表社員 税理士 長谷部 健一
代表社員 税理士 藤波 篤史
税理士法人 Life & Company Assist
L&Cアシスト
〒340-0014 埼玉県草加市住吉1丁目4-12-101
Tel:048-924-9244 Fax:048-924-2554 http://www.townnavi.net/l&c-assist/
e-mail : hasebe-ken@tkcnf.or.jp



草生人　2015年春号（No.14）　2015年3月10日発行　株式会社アシモズ　染谷洋子　〒340-0015 草加市高砂2-16-3 松井ビル301　Tel：048-954-7537
本紙掲載の写真・イラスト・記事の無断転載を禁じます ©2015 ASYMOS